

5 松浦川における総合的な取り組み

洪水に対する減災、河川やダム湖の水質改善、さらには河川へ流入する流木やゴミの問題など、いずれをとっても河川そのものにおける対症療法的な対策では、その効果に限界があるばかりか、多くの時間と費用を要することになることから、それぞれの課題の発生源である流域全体での取り組みが不可欠となっています。

また、松浦川流域には歴史的・文化的な施設や機能、地域住民の営みの結果として形成されてきた良好な風景が数多く残されており、これらの財産を後生に継承していく上でも、河川単独での取り組みではなく、流域として捉えた中での河川の位置づけ、役割を再認識しつつ流域一体となった取り組みを進めていく必要があります。

これらのことから、地域の防災力の向上、河川の水質改善、ゴミ対策、環境保全、利用促進及びまちづくりなどの様々な取り組みにあたって、流域管理という視点に立ち、従来の河川行政の枠組みを超え、それぞれを所管する関係行政機関、総合行政を担当する佐賀県、関係市はもとより、広く流域住民、住民団体等の多様な主体が連携、さらには協働できるよう取り組みます。

5.1 関係機関、地域住民との連携体制の構築

松浦川流域における歴史的・文化的施設や良好な風景等を後生に残すため、関係行政機関、佐賀県及び関係市との情報の共有化、各種施策の共同実施など連携を強化した事業展開を図ります。

また、地域間の交流・利活用を促進することで人と川のつながりの再構築を図ることを目標に、松浦川における広域的な活動拠点のネットワークを形成します。

ネットワークの形成にあたっては、観光都市唐津の観光拠点としての利用や、ボートなどスポーツ・レジャーとしての利用、またアザメの瀬など学習空間としての利用など、これらの水辺拠点の保全・整備を図るとともに、流域住民との合意のプロセスを重視して進めていきます。

さらに、河川に関する情報を関係機関や地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育などの充実を図るとともに、住民参加による河川清掃の推進等、河川愛護の啓発活動等に取り組みます。

これらにより、地域住民が松浦川に関わる機会を設け、地域住民独自の取り組みを積極的に支援するなど、「憩いの場として愛される松浦川を地域住民とともに」との認識に立った住民との協働による河川管理を推進します。



写真 5.1.1 出前講座の実施風景

国土交通省で行う事業や施策について知って頂くとともに、皆様のご意見やナマの声を聞かせていただく場として「出前講座」を行っております。「出前講座」においては、職員が持つ知見を活かし、皆さんが持っている様々な興味・疑問・批判などに出来る限り、わかりやすくお答えします。そのため、講座の中には、小学生を対象とした入門編から、専門家などを対象とした上級編まで幅広く実施しています。

5 松浦川における総合的な取り組み

5.1 関係機関、地域住民との連携体制の構築



写真 5.1.2 小学校児童による水生生物調査

本調査は昭和 59 年より実施しているもので、水生生物の生息状況の調査や簡易な水質調査を行うことで身近な川のすがたを知るといったものです。

多くの方々が川に親しみ、川を理解し河川愛護や水質浄化への関心を持ってもらうきっかけになって頂ければと考えており、小・中学生や高校生、一般市民の方々へ調査を依頼しています。



写真 5.1.3 地域住民による河川清掃活動

写真 5.1.4 松浦川アザメの瀬自然環境学習センター

たくさんの生き物が住んでいるアザメの瀬のしくみを学べるように作られました。環境学習や地域住民の交流の場としても利用できます。



【松浦川流域拠点ネットワーク構想】

海も含めた流域拠点のネットワーク化（川と海のコラボレーション）



図 5.1.1 松浦川流域拠点ネットワーク構想図

5.2 地域の将来を担う人材の育成・発掘

川は貴重な自然体験の場であり、子どもたちの感性を磨き、想像力を養う最適の場であるといえます。最近、外で遊ぶ子供達が少なくなったなどよく耳にしますが、川での遊びも例外ではなく、川を遊びの場とする子供達＝『川ガキ』の姿を見かけなくなりました。昔は、川を通じて学び・遊ぶことが、普通で当たり前の風景だったといえます。こうした「川離れ」は、全国的にも広がっており、問題視されています。

今後、川づくりを進める上で、川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習など水辺の自然体験活動等の機会を提供し、将来の地域を担う子供達への環境学習を積極的に支援します。また、これらの自然体験活動の指導者育成・発掘に取り組むとともに、これまで度重なる水害や渇水を経験した地域住民がもっている知識や知恵等を伝承していく「語り部の達人（仮称）」といった人材の育成にも取り組みます。

また、今後の河川の調査、計画、工事、管理のそれぞれの面における河川環境の知識と現場経験を向上させるため、長期的な視点で河川環境に精通した河川技術者の育成に取り組みます。



写真 5.2.1 川遊びに興じる子どもたち

(松浦川 28/600 付近：桃川親水公園、伊万里市松浦町)
親水公園横の松浦川で川遊びをしている子どもたちが多くみられます。



写真 5.2.2 市民団体主催のリバースクールの様子

(厳木川 7/000 付近：唐津市厳木町)

厳木川町切地区を中心に活動している市民団体が主催し、小学生を対象としたリバースクールを開催し、水辺の自然体験の場を提供しています。

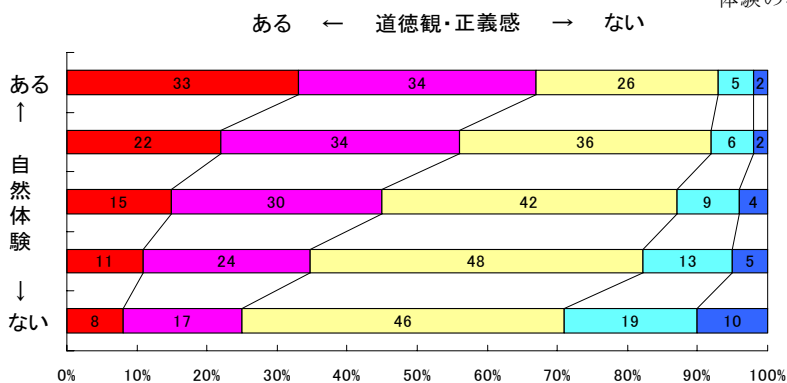


図 5.2.1 自然体験のあるなしによる道徳観・正義感の違い

文部省（現文部科学省）（青少年教育活動研究会）子ども体験活動に関する調査（H10.7）より、自然体験のある子ほど道徳観・正義感が身に付くという結果が得られ、川や山、海など自然が子どもたちの人格形成により影響を及ぼしていることが分かります。



写真 5.2.3 河川実地研修の講義風景

5 松浦川における総合的な取り組み

5.3 地元住民の関心を高めるための取り組み

5.3 地元住民の関心を高めるための取り組み

松浦川の特性と地域風土・文化を踏まえ、「松浦川らしさ」を活かした河川整備を進めるために、ホームページ・広報誌やラジオ、テレビ、新聞などメディアを利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりに取り組むなど関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進していきます。



図 5.3.1 武雄河川ホットニュース

平成 16 年 2 月より、佐賀県を潤す松浦川・嘉瀬川・六角川・有明海岸のホットな情報を発信しています。



写真 5.3.1 防災・減災フォーラム in 佐賀

平成 16 年 12 月の「新たな危機管理対策プラン（平成 17 年 11 月改定）策定以降、これらのフォーラム等でプランの内容を紹介しました。



写真 5.3.2 住民参加によるアザメの瀬検討会の様子

アザメの瀬自然再生事業では徹底した住民参加による計画立案・実施を行っており月に 1 回程度の割合でアザメの瀬検討会を実施しています。平成 14 年 12 月には地元住民組織「アザメの会」が自主的に立ち上がり、アザメの瀬に関する様々な活動が行われています。